

表2 看護教員の教育実践力と講習会終了時における到達目標と主な教育内容

能力		下位の能力	講習会終了時における到達目標	主な教育内容
Ⅰ 看護教育の基盤となる能力		A 看護教員の基本的責務	1 組織の一員として、カリキュラム運営について教員会議で発言する必要性がわかる。 2 自己の看護教育に対する考え方を理論的に明確にし、学生に示すことができる。 3 私はこれから教師という仕事にやりがいを見出し取り組んでいける。 4 自分の役割を果たす上での限界を同僚、あるいは関係者に説明できる。 5 自分の言動が学生に及ぼす影響を自覚して、責任ある行動がとれる。	・看護教育における教師の役割と求められる資質 ・看護教員として果たすべき責務と業務の範囲 ・看護教育における倫理 ・看護教師のあり方 ・学校管理における教員の役割 ・成長発達に伴う学習者の心理 ・学習者の個と集団の理解 ・学習者と教師の相互理解 ・青年期である学生の価値観や信条・文化 ・学習者との相互理解を基本とした援助関係を形成
		B 看護教育における倫理的実践	6 教師として知り得た学生の個人情報了他所で話題にしないように行動する。 7 学生が立てた学習計画を尊重しながら、助言している。	
		C 看護学生との援助的人間関係	8 授業では、学生の意見や要望を認め、受け入れるような関わりができる。 9 学生の個性を大切にし、個々の成長に応じて対応できる 10 学生の相談に応じる際には丁寧に話を聴き、学生が自分の気持ちを本音で話せるように関わろうとする。	
Ⅱ 看護教育の展開能力	1 看護学生のレディネスに応じた教育実践力	D 看護教育における教育的判断	11 ケア場面において、患者の反応や学生のケア提供による影響を見極め、援助の中止・変更を決定できる。 12 学生がケアを患者の状態に合わせて安全に実施できるように、患者のベッドサイドで、ケアの改善点をタイミングよく助言・指導できる。	・看護観の明確化 ・各看護学の専門領域の概要と構造 ・変化する保健医療福祉制度の動向 ・看護教育を取り巻く環境の変化 ・看護教育における教材研究 ・看護教育における技術教育 ・看護教育における「統合」の方法 ・看護教育における教授学習計画 ・指導技術 ・単元の学習指導計画・講義の指導案の作成と実施 ・臨地実習の学習指導計画および指導案の作成と実施 ・教育課程の基礎理論 ・看護教育課程の編成方法 ・教育課程評価 ・看護教育課程の編成の実施 ・看護教育における評価 ・授業評価
		E 看護教育の計画的な展開	13 対象となる学生の既習知識・経験・考え方を捉え、授業の到達目標が設定できる。 14 自己の看護観と教育観を踏まえた教材研究をし、授業内容を抽出できる。 15 授業内容を中核目標として、論理性のある順序で配列できる。 16 実習目標を達成するために、患者に必要なケアや学生の実習体験を考慮して、指導内容を抽出できる。 17 実習目標を達成するために、患者の状況と学生の実習体験を考慮して、実習指導方法を選択できる。 18 保健師等養成所指定規則と比較して、自校または、教育実習を行った養成所のカリキュラムの特徴を述べることができる。 19 自校または、教育実習を行った養成所の看護教育の現状を分析し、カリキュラム上の課題を見出すことができる。 20 授業では、学生の反応を捉えながら、教材・教具を提示し説明できる。	
			21 授業では、発問や指示、KR情報を用いて学生の思考を促し、理解内容の確認ができる。 22 学生が看護の現象について研究的態度で追求できるように、文献の検索方法や読み方を指導できる。 23 学生がケアを患者の状態に合わせて安全に実施できるように、患者のベッドサイドで、ロールモデルを示すことができる。 24 学生と患者の関係を捉えて、患者-看護師関係形成の視点から調整の必要性が判断できる。 25 学生に体験の振り返りを促し、看護として意味づけられるように発問できる。 26 学習内容が深化していくようにグループダイナミクスを活用して、カンファレンスを運営できる。	
			27 授業目標の達成についての評価結果を指導に生かすことができる。	
		F 教育実践の評価	28 指導過程を振り返り、用いた教材や指導技術について、改善点を見出すことができる。	
		G 創造的教育活動の推進	29 人々の協力を得て、教育活動を新たに考えだすことができる。	
	2 制教育調整能力と教育体	H 教育機関における危機管理	30 学習活動の中で起こりうるリスクを予測し、事故を予防するための対処方法が考えられる。	
		I 教育組織におけるチーム連携	31 臨地実習において、学習が促進するように、実習に必要な物品や実習指導者との関係を整えることができる。 32 必要に応じて、臨地実習の指導責任者や指導者との連絡や調整の時期を判断できる。	
		J 教育組織の管理	33 自分が担当している業務内容を同僚に話し、意見を求める必要性がわかる。	
Ⅲ 看護教育実践の中で研		K 専門性の向上	34 専門領域の内容に関する教材研究において、テキスト・資料の内容を批判的に検討できる。	・看護研究の意義と目的 ・文献検索 ・看護研究デザインと研究プロセス ・研究論文の読解と研究結果の活用 ・各領域の専門的研究 ・生涯学習 ・論理的思考と表現力 ・ものの見方や認識
		L 看護教育の質の評価と改善	35 困難を感じた自己の教育実践を振り返り、その実践についての新たな教育的理解を見出すことができる。	
		M 継続学習	36 専門領域の看護学研究の動向を把握し、追求したいテーマを見出すことができる。 37 看護教員として自己のあり方を洞察し、課題を見出すことができる。 38 専門領域の看護実践力を高めるために、実践的な内容に関する研修を続けていくことができる。	

—— 専門分野
 —— 基礎分野・教育分野
 その他（関連分野）

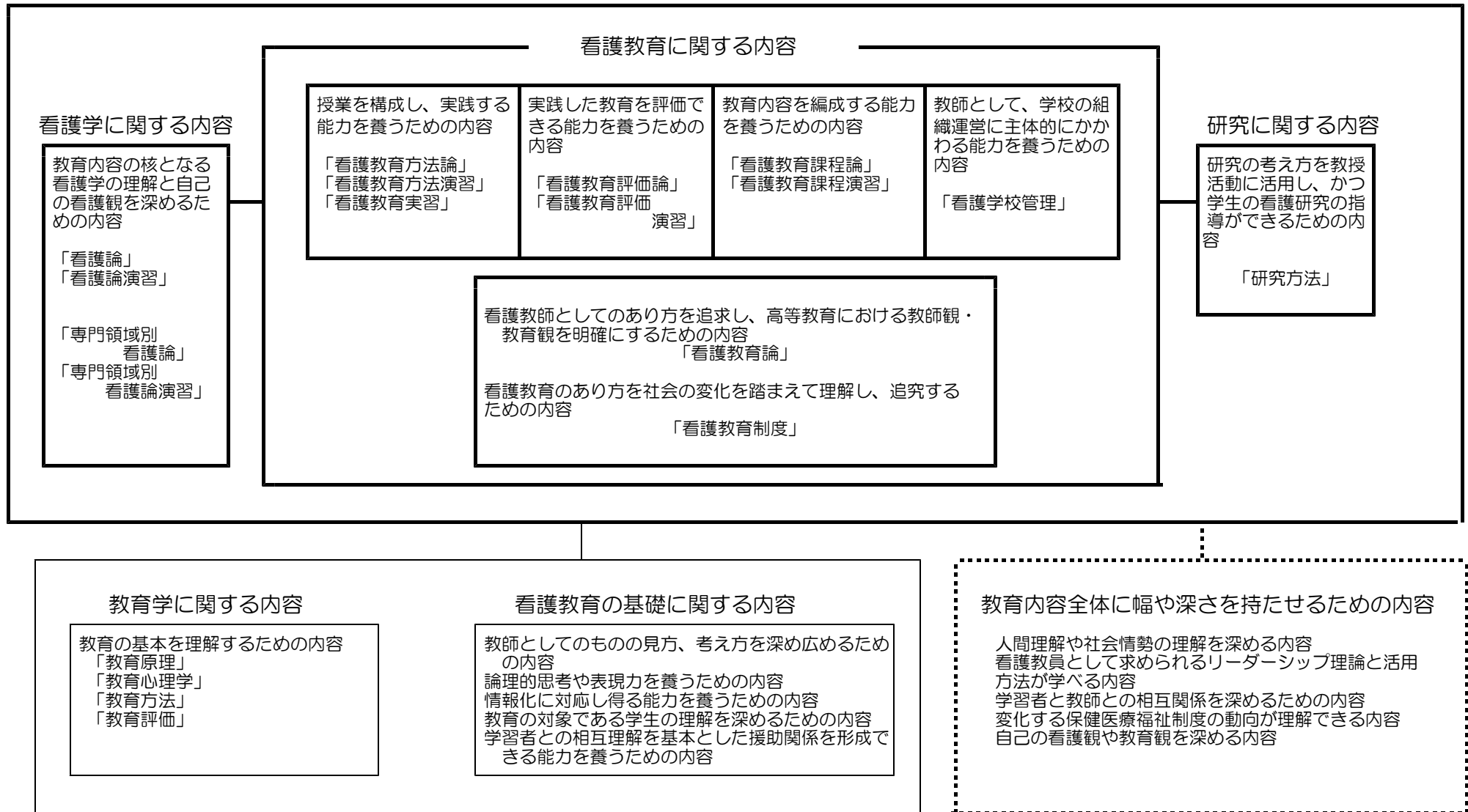


図2 教育内容の構造

表3 教育内容一覧

＜基礎分野＞ 看護教員として必要な基礎知識を学ぶ。

教育内容	目 標	授業科目	時間数	単位数	主な内容
看護教育の基盤	ものの見方や考え方を広げ、教育の対象である学習者の理解を深める。	＜授業科目の例＞ 論理学 哲学 情報科学 倫理学、生命倫理 青年心理学、社会心理学 人間関係論 比較文化論、文化人類学等	60	4	＜教育内容＞ ・論理的思考と表現力を養うための内容 ・ものの見方や認識について理解するための内容 ・情報化に対応し得る能力を養うための内容 ・青年期である学生の価値観や信条・文化を理解するための内容 ・学習者との相互理解を基本とした援助関係を形成できる能力を養うための内容

＜教育分野＞（教育に関する分野） 教育の原理を系統的に学ぶ。

教育内容	目 標	授業科目	時間数	単位数	主な内容
教育の基盤	教育の本質、教育方法、技術 学習過程、教育評価の基本的理論を学ぶ。		90	4	
		教育原理			・教育の本質 ・教育の目的 ・教育の歴史 ・教育の内容（教育内容と教育課程） ・教育制度
		教育心理学			・成長発達に伴う学習者の心理の理解 ・学習者の個別的理解 評価的理解 共感的理解 ・学級集団の理解 ・学習理論と学習指導の方法 ・学習過程とそれに関与する心理学的要素
		教育評価			・教育評価の意義と機能 ・教育目標の分類体系とその活用 ・評価の種類 ・評価用具の信頼性と妥当性
		教育方法			・教育方法のとらえ方 ・教授－学習理論の変遷と現状の理解 行動主義による学習観、認知心理学による学習観、 状況論的学習観 ・工学的アプローチと羅生門的アプローチの理解 ・教授－学習方法の原則の理解とその活用方法 ・教授－学習過程の理解 ・教材研究の知識と活用方法 ・指導技術の知識と活用方法 ・授業の評価の方法

＜専門分野＞（看護に関する分野） 看護学の教授、学習活動に関する理論を学ぶ。

教育内容	目 標	授業科目	時間数	単位数	主な内容
看護論	人間の健康、看護の考え方を多角的に学び、自己の看護観を明確にする。	看護論	30	1	・看護の定義とその変遷 ・「人間」「健康」「環境」「看護」の概念の明確化
		看護論演習	30	1	・看護師の役割と専門性 ・看護活動の場と対象のニーズ ・生命倫理や人権意識と看護 ・自己の看護実践の振り返りからの看護観の明確化
看護教育学	看護教育の目的、内容、方法などの基本理論を学び、看護教育のあり方について考える。	看護教育論	15	1	・看護教育を支える法制度と看護教育の現状 ・看護教育を取り巻く環境の変化 ・看護教育における倫理の理解 ・看護教育における教師の役割と求められる資質 ・看護教員として果たすべき責務と業務の範囲 ・看護基礎教育と生涯教育
	看護教育制度の変遷と現在の教育制度について理解する。	看護教育制度	15	1	・看護教育制度の成り立ちと変遷 ・現在の看護教育制度 ・現代の看護教育の問題点と将来の展望
看護教育課程	看護教育課程編成の基本的な考え方を学び、看護学全体の構造を理解する。	看護教育課程論	45	2	・教育課程の基礎理論の理解 ・看護教育課程の理解 看護教育制度からみた教育課程の理解 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の理解 ・看護教育課程の編成方法の理解 統合分野の考え方 統合分野における教育内容とその方法の理解 ・教育課程評価の考え方と方法

	看護教育課程編成のプロセスを学び、看護師教育のあり方を理解する。	看護教育課程演習	60	2	- 看護教育課程の編成の実際 - 看護教育のニーズと制約の考え方と実際 - 教育理念の考え方と実際 - 期待する卒業生像の考え方と実際 - 教育目的、教育目標の考え方と実際 - 教育内容の抽出の考え方と実際 - 教育内容の組織化の考え方と実際 - 看護教育課程の課題
看護教育方法	学習指導計画、教材作成について学び、これを活用して講義、演習、実習等における展開方法を学ぶ。	看護教育方法論	90	3	- 看護教育における教授—学習活動の成立 - 看護教育における教材と教材研究 - 教材研究の過程 - 看護技術教育における教材の精選 - 臨地実習における学習者の経験の教材化 - 看護教育における技術教育および問題解決能力、「統合」する力を育成する方法 - 看護技術力を促す教育方法 - 思考過程を促す教育方法 「統合」する力を育てる教育方法 - 看護教育における教授学習計画作成の考え方 - 講義、演習、臨地実習指導案作成の考え方 - 教育指導技術の種類と特徴 - 授業評価の考え方（講義、演習、臨地実習）
	学習指導計画、指導案を作成し、模擬授業を行い（実習指導を含む）、その結果を考慮し看護教育方法を身につける。	看護教育方法演習	90	3	- 単元の学習指導計画の作成の実際 - 講義の指導案作成 - 演習（カンファレンス、技術演習）指導案の作成 - 臨地実習の学習指導計画および指導案の作成 - 授業のリフレクションによる自己の課題の明確化
	看護教育の理論と技術を実際に適用し、教育方法や教師のあり方を学ぶ。	看護教育実習	90	2	- 看護学生の理解の実際 - 講義または演習の指導の実際 - 臨地実習指導の実際 - 看護教師のあり方の理解
看護教育演習	各領域別看護における内容とその構造を理解する。	専門領域別看護論	15	1	在宅看護、国際看護、災害看護、医療安全、看護管理の概要と構造の理解
	各専門領域別看護の教育内容、教育方法について学ぶ。 （選択制） （統合分野を含む専門領域から一領域を選択）	専門領域別看護論演習	60	2	- 各専門領域の概要と構造の理解 - 各領域の専門的研究に対する文献等のクリティークからの教育内容の明確化 - 各領域の看護実践の振り返りと看護教育に必要な教育内容や教育方法の明確化
看護教育評価	看護教育内容の評価方法を理解し、その適用について学ぶ。	看護教育評価論	30	1	- 看護教育における評価の目的と機能 - 看護教育における評価目標設定と評価基準 - 看護教育における授業内容と評価用具 - 看護教育における授業の評価計画 - 看護教育評価の現状と課題
	看護技術評価を作成し、看護教育評価の理解を深める。	看護教育評価演習	30	1	- 看護技術における評価規準と評価基準の作成の実際 - 看護技術の評価方法の実際
研究	看護教育における研究の意義を理解し、研究結果の教育活動への活用や看護研究の指導方法を学ぶ。	研究方法	60	2	- 看護研究の意義と目的 - 文献検索の意義と方法 - 看護研究デザインと研究プロセスの理解 - 研究論文の読解と研究結果の活用 - 学生が事例研究を学ぶ意義と指導方法 - 看護学における研究の現状と課題
看護学校経営	看護学校の組織運営の特性と管理のあり方を学ぶ。	看護学校管理	15	1	- 学校管理の基本 - 看護学校運営に関する指導要領及び手引きの理解 - 看護学校経営と組織運営の特性 - 学校管理における教員の役割 - 看護学校における管理の実際 （人事管理、学級管理、事務管理、図書管理、施設・物品管理、危機管理、情報管理など） - 看護学校運営の評価と今後の課題

＜その他＞

教育内容	目 標	授業科目	時間数	単位数	主な内容
	看護教員に必要と思われる教育内容を学ぶ。	＜授業科目の例＞ 民俗学 身体論 生命倫理 医療経済論 健康政策論 リーダーシップ論 コミュニケーション論 カウンセリング論 キャリアアップ論 等	30	2	＜教育内容＞ - 人間理解や社会情勢の理解を深める内容 - 看護教員として求められるリーダーシップ理論と活用方法が学べる内容 - 学習者と教師の相互理解を深めるための内容 - 変化する保健医療福祉制度の動向が理解できる内容 - 自己の看護観や教育観を深める内容 ＊各都道府県の特徴を生かして科目設定する。